

目蒲線目黒駅付近～洗足駅付近間立体交差事業
平成11年10月10日から目蒲線不動前駅付近を高架線に切り替え

東京急行電鉄株式会社

東京急行電鉄（本社：東京都渋谷区、社長：清水 仁）では、東京都、品川区、目黒区と共同で進めている目蒲線（目黒～洗足駅間）立体交差事業の進捗に伴い、平成11年10月9日（土）終電後、目蒲線不動前駅付近約570mを高架（仮設）に切替えるとともに、昨年1月に仮移設した不動前駅を元の武蔵小山寄り約70mの位置に高架駅として戻す工事を行います。

今回行われる切替工事は、当社が開発した「直上高架切替工法」（STRUM）を採用して行います。これは、線路仮受桁を切替までに現在使用している線路の上部と下部に配置しておき、電車への影響を最小限とするため、一夜にして約570mの仮受桁の上げ下げを行い、高架線に切替える工法です。この工法は、仮線用地がいないため、用地買収の費用が軽減でき、工期を短縮できるというメリットがあり、都市部の立体交差化工事では効率的な工法とされています。

高架駅への切替後、駅前の踏切（目黒1号踏切）が立体交差化されます。また、武蔵小山寄りの踏切（不動前1号踏切）は切替工事に先立ち10月3日（日）0時から閉鎖し、歩行者および自転車で通行される方のため新たに歩道橋を設置します。

高架駅では移設完了後の10月10日（日）からの営業開始の後、上り線仮ホーム側に設置するエスカレーター1基の使用を開始します。今回移設する駅は仮ホーム対応で、今後は本設ホームにするための工事を進めていきます。

なお、この工事に伴い、10月10日（日）の目蒲線目黒～大岡山間の上り線で、初電から2本（奥沢5時00分発目黒行き・奥沢5時15分発目黒行き）と下り線初電（目黒5時16分発蒲田行き）の合計3本の運転を休止します。この対応として、バス等による代替輸送を行うとともに、池上線経由でJR山手線の連絡を図る為、大井町線大岡山～大井町間の上り線で臨時列車（大岡山5時2分発大井町行き）を運行します。

目蒲線（目黒～洗足駅間）立体交差事業は、都市計画道路補助第26号線整備事業の事業認可（平成7年9月）に伴い、東京都、品川区、目黒区、当社を事業主体として都市高速鉄道東急目蒲線の目黒駅付近～洗足駅付近の約2.8kmの区間を立体交差化するもので、平成7年12月から工事を進めているものです。現在この区間の道路と鉄道は平面交差となっており、これを立体化することで18箇所の踏切が解消されます。これにより、安全性の向上と、慢性的な交通渋滞の解消が図られるとともに、鉄道によって隔てられた地域の一体化が実現されます。全体工事の竣工は平成15年3月の予定です。

なお、当事業は道路整備の一環として、「ガソリン税・自動車重量税等」の財源をもとに、建設省所管の国庫補助により、東京都の都市計画事業として施行しています。

切替工事に伴う目蒲線列車の一部運転休止と、目蒲線立体交差事業の概要はつぎのとおりです。

目蒲線列車の一部運転休止について

実施日	平成11年10月10日(日)
運休列車	●上り線 奥沢5時00分発 目黒行きの大岡山～目黒間 奥沢5時15分発 目黒行きの大岡山～目黒間 ●下り線 目黒5時16分発 蒲田行きの日黒～大岡山間
代替輸送	目黒～大岡山間について、運休列車の発車時刻に合わせてそれぞれバス等による代替輸送を行います。
臨時列車	●大井町線上り 大岡山5時02分発 大井町行き

目蒲線立体交差事業の概要

■工事の概要

都市高速鉄道	延長	2,803m
	構造形式	高架方式・402m、 掘割・511m 地下・1,890m
	駅施設	不動前駅・武蔵小山駅・西小山駅・洗足駅 (1) ホーム延長：170m(8両編成) (2) ホーム幅員：約2m～約9m
	着工	平成7年12月
	竣工	平成15年3月予定
	総事業費	約800億円

■解消される踏切数・・・18箇所

■改良される都市計画道路・・・3箇所

■事業の効果

- 踏切の解消により道路、鉄道の安全性の向上と交通渋滞が解消でき、緊急時の活動等の迅速化が図られます。
- 鉄道で分断されていた市街地が一体化するため、沿線地域のまちづくりに役立ちます。
- 目蒲線の乗客の利便性および安全性が向上するとともに、営団地下鉄南北線、都営三田線との相互直通運転により都心へのアクセスが強化され、輸送力が増強されます。

以 上